様式２

北海道遠別農業高等学校の行動計画（グローカル・アグリハイスクール宣言　PartⅡ）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和７年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「８の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
Ⅰ **グローカル教育**で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	○プロジェクト活動をとおして、各教科・科目で学んだ知識や技術を体系的・系統的に理解し、相互に関連づけられた技術を身に付ける。	観察や実験・実習をとおして実践力が身につくよう記録や振り返りに重点をおいた教科内のプロジェクトを実施することができた。	教科内プロジェクトで身につけた実践力を授業内で生かすことができる生徒の育成が必要である。	5
	2 「世界と日本をつなぐグローカル教育」を行います。	○海外農業研修を通じて、海外の食や文化、農業などに関する知識を実践的・体験的に学習する。	３年生の海外研修の中で農業施設の視察やその国の文化に触れることで国際的視野を持つ生徒の育成に繋がった。	海外研修で習得した国際的な視野を地域の課題解決に活かすことができる生徒の育成が必要である。	4
Ⅱ **地域社会・産業**に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	○これから地域農業を支えていく若い農業者や農業改良普及センターと共同で、地域農業について考える機会を設ける。	「ファーマーズトークinるもい」に参加し、４Hクラブと地域課題の解決について意見交換することができた。また、その中でプロジェクト中間発表を行い、質問や意見を頂いた。	参加する時間の調整や学校での農業学習と地域農業との繋がりを持たせた事前学習の実施、事後指導の充実が必要である。	5
	4 「地域の農業関連産業や６次産業化に寄与する教育」を行います。	○地域の特産品になるような商品開発やふるさと納税の返礼品への協力方法について探究する。	羊肉まんを開発し、販路拡大することができた。また、ふるさと納税の返礼品として、メロン、米、タマネギ、ペリーラを提供し地域貢献と生徒の学習意欲の向上につながった。	現在開発中の製品の完成と、既存生産品の品質向上を実現し、販売会や、ふるさと納税返礼品が実現出来るよう取り組む必要がある。	4
Ⅲ **地球環境**を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	○農薬や家畜糞尿による汚染などの環境負荷について正しく理解し、持続可能な作物の栽培や家畜の飼養管理を実践する。	「作物」の授業で有機JASやASIAGAP認証に関する学習を授業の中で展開することができた。 また、他の科目においても、日頃の授業や実習の中で農業と環境負荷について意識させ指導することができた。	生徒が主体的に農業生産と環境負荷ついて考え議論し、実践できる環境づくりが必要である。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	○コミュニティースクールでの協議を踏まえ、地域活性化のための具体的な方法を明確にする。	総合的な探究の時間で実施するプロジェクトテーマにおいて地域資源の活用や地域発展にむけた商品開発について取り組む事で、地域振興に関する興味関心が向上し、主体的な活動につなげることができた。	地域資源の活用や地域振興の取り組みが、一部の生徒にとどまっていた。	4
Ⅳ **地域交流**の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	○ICTを活用したスマート農業を実践し、データを集積するとともに、地域への技術還元と情報発信を活発化させる。	水田の自動水位設定装置や羊舎のカメラを活用することで適切な管理体制を構築することができた。また、昨年に続き先端技術としてドローンによる湛水直播試験を実施することができた。	学校がICT技術をはじめとする先端技術を学ぶことができる場となり、地域に還元していけるよう取り組んでいく必要がある。	4
Ⅴ **地域防災**を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	○各種自然災害に対して適切な対応が取れる能力を育てる。 ○火災等の人為災害を未然に防止する。	学校安全計画や危機管理マニュアルの見直し、点検を実施するとともに「一日防災学校」を開催し、生徒自身が様々な場面で危険を予知、回避する能力の向上に繋がる取組を行った。	生徒が地域防災について自ら考え計画し行動できる体制を構築する必要がある。	4